

暁 星(ぎょうせい)

登録番号：第1236号

育成者：佐藤孝雄

登録年月日：昭和61年11月21日

来歴：「あかつき」の枝変わり

登録者：佐藤孝雄（福島県伊達郡伊達町大字伏黒字東平25）

育成地：福島県伊達郡伊達町大字伏黒字東平25

特性

■栽培特性

樹姿はやや開張性、樹勢は中程度で「あかつき」に似ている。花芽の着生は多く、花粉が多いので結実は安定している。開花期は4月20日頃であり、「あかつき」、「白鳳」などと同時期である。生理落果は少ない。収穫時期は7月下旬で「あかつき」より約1週間程度早い。収穫期後半は「あかつき」の収穫始めとやや重なる。

■果実特性

成熟日数が100日程度の早生品種である。果実の外観は扁平形で、大きさは約200gとやや小さい。着色は多く、全面に濃く着色し外観は良好である。果肉の色は白だが果肉内の色素は中程度であり、「あかつき」よりやや多い。肉質は溶質で緻密であり、「あかつき」よりやや劣るものの早生種の中では極めて良好である。糖度は13～14度で、他の早生品種に比べて高く、年次変動も少ない安定した品質を示す。酸味は少なく、食味は良好である。果実の日持ち性に優れている。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

慣行の防除体系で特に問題となる病害虫の発生は認められていない。「あかつき」、「白鳳」等と同様の防除体系で実用上問題ないと思われる。

「暁星」は早生種として品質が優れており、年による品質差も少ないので安定した生産が可能であるが、果実の大きさが25玉中心でやや小さいのが欠点である。しかし、230～250g（22玉～20玉）中心の果実生産は可能であり、大玉生産を重視した管理を行うことが重要である。

特に果実の初期生育を促進するために摘蕾・摘花は必須であり、早期に摘果をし、適正着果を心掛けること（着果量は「あかつき」や「白鳳」を100とすると、「暁星」は80程度に制限）も重要である。収穫期が梅雨期にあたることから、果実品質に留意しなければならない。また、この品種は着色が良好であるために適熟果の判断が着色からはできない。よって適熟果は果形や地色の抜け具合から判断する。

整枝せん定では中～長果枝中心のせん定で、やや強めに行うことや秋中心の施肥で貯蔵養分の確保により、春先の新梢生長、果実肥大のスタートを良好にし、大玉の果実生産に努める。

■地域適応性

この品種は全国の主要なモモ栽培地域であれば、いずれの地域でも栽培可能と思われる。しかし、モモは品種を問わず耐水性が劣るので地下水位が低く透水性の良い土壌を選んで植栽する。

(阿部 薫)